



投稿ください。市民の皆さんの意見交換の場がこの市民談話室です。テーマは自由です。あなたの意見を気軽に寄せてください。採用文には薄謝を申し上げます。紙面の都合上、文を短くすることがあります。あて先は、大字白根二二三五 白根市役所企画財政課広報広聴係です。

大通川の桜林

景気を先取りしたお花見行事を

青木喜代子さん (大通団地西・主婦・56歳)

「お花見」何と優雅な言葉でしょう。この言葉を聞いただけでも、心がウキウキして楽しい気分になる。越後の雪の中で、春の来るのを待ちわびていた私たちだけになおさらの事。

ハラハラと花吹雪舞う花の下で、何もかも忘れて春の一日を過ごすことは、本当に結構な事です。この昔からのお花見行事を大いに楽しむようにしたいのです。

新潟日報の花だよりが、毎年のように「好春登陸原」「ことしもお花見は鶯ノ木さくら遊園へどうぞ」と、毎日掲載しています。

長堤十里の加治川堤の桜に迫る大通川の桜林を、「好春」だけの桜にせずに……。市や地元の人々も力を注いで、「三日見ぬ間の桜かな」と片付けずに、来年こそはお花見のモラ

合併後28年目の白根

いつまでも平和なまちが続くよう

風間喜代江さん (戸頭・無職・71歳)

一町八村が合併し白根町が誕生して二十八年目を迎えます。当時、この町は六千八百町歩の中にあるといわれました。田圃都市という意味でしょう。

しかし、時代は進歩します。数年前、相模に工業団地ができ、近代的な工場が立ち並びました。この工業団地を他町村の人が見て、白根市は時代を先取りするすばらしい町だと、ほめた言葉を聞いたことがあります。私もそのとおりと思います。また、合併してから白根市は

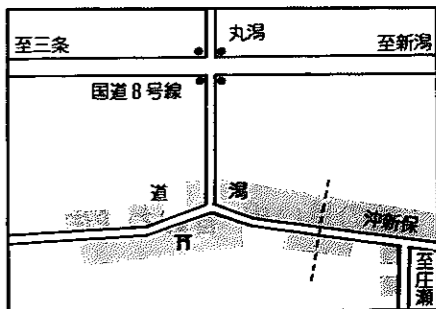
ぼくたちわたしたちの部落・町内会



茨曾根小学校6年 細川茂雄くん

道 湯

ぼくたちの部落は、たんぼが多くて農業をしている人が大部分です。この人たちはみんないい人ばかりで、いい部落だと思います。

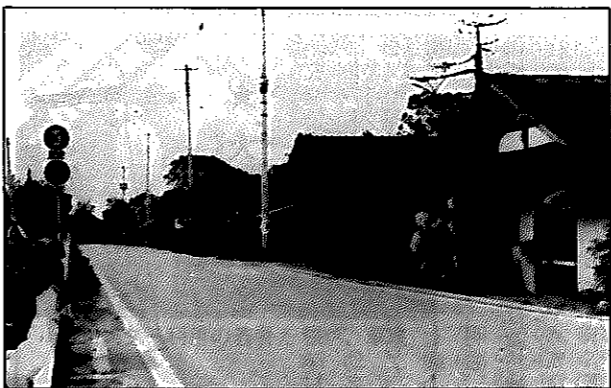


道湯という部落は、道路にそって家がたっています。この部落にはお宮があって、小さい子が学校から帰ってくるど遊んでいるのがよく目につきます。

道湯というのだから、むかし、湯だったところがたんぼになっていきます。どんな湯だったのかわかりませんが、湯があったのだそうです。

道路にそって用水が流れています。川があさいとき、魚がおよいでいるのがよく見えます。ぼくたちは、その川でよく魚つりをします。

世帯数 五〇世帯
人口 二九九人(男一一七人 女二二二人)
(六月一日現在)



お花見のモラとへー東京白根会が郷土訪問



風合戦期間中の六月四日、東京白根会の一行四十人がふるさと白根を訪問。これは、同会創立二十周年を記念し、風合戦観戦ツアーを組み帰郷したものです。一行は白根神社を参拝した後、市役所で歓迎交歓会を。席上、会を代表して高木一郎会長から、ふるさとの発展のために役立ててと、市社会福祉協議会へ二十万円、風合戦協会へ十万円が贈られました。

この後、大風合戦を観戦。ひさびさの「ふるさと」を満喫していました。

婦人を対象に堀掛部落で消防訓練

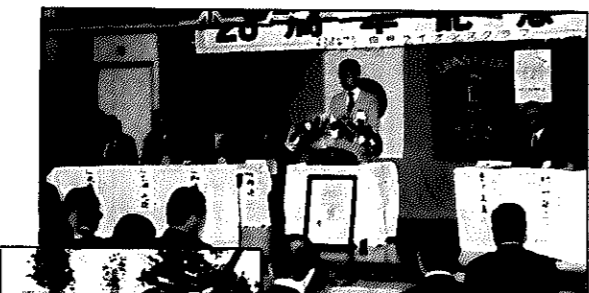


いざという時に備えて、消火器や消火栓の使い方を覚えてもらおうと、五月二十九日、堀掛部落で消防訓練が行われました。これは、婦人の方を対象に、市消防団の白井第八分団が行ったもの。婦人たちはまず、消火器の種類や使い方などの説明を受けた後、材木や油を燃やして実戦消火。その後、部落内にある消火栓の操作の仕方を教わりました。

誕生二十周年を記念し、総合体育施設に植樹 今後も地域社会に奉仕 ライオンズクラブ

このほど、白根ライオンズクラブが同クラブ誕生二十周年を記念し、総合体育施設用地にケヤキやクロマツなど二十九本を植樹しました。このほか、中学生野球大会の賞品代とメダル、白根小に野球ユニホームも寄贈。

また、五月二十九日には二十周年記念式を開き、今後も地域社会に奉仕することを誓い合いました。



川柳



足音を殺す弱者の独り言
ギャンブルに凝って妻子に見放され
充電をして天敵に立ち向う
活発に動く胎児の名前選る
上昇の気流にはずむ応援歌
田中派のワンマン野暮をおし通し
その先は見るまい妻の旅日記

本間 吾朗
大井 義雄
吉川 彰
高橋祐四雄
西條 ムラ
米野 光雄
今井 七郎

子の家出が若さを振り返る
奥の手を使う悪女の舌の裏
活発に子を手をあげる参観日
おふくろの胸に、ツの海がある
おふくろの味に挑んだ嫁の意地
初孫の帰る日を待つ老夫婦
新しいカバンかついだ孫の笑み
梅雨時にしまいそこねた暖房器
紫陽花の幾色変わる老いの居間
挨拶も見ぶり手ぶりの英会話
不孝者親に似てると諦める

後藤まさの
吉川 末吉
中村 尚治
長井 徳市
岡村 清
成田 吉子
佐藤トミノ
堂下 正直
田村 恒夫
花岡 増男
竹石 甚五

俳句

愛一ツ抱いてパズルを埋めてゆく
亡き友を思い出させる芍薬の花
花菖蒲散しき落成案内状
よしきりや圃場整備で居場所なし
酢の利きし心大なり暑のきびし

山岡 フミ

短歌

震える津浪に逝きし愛し子の
生きて還らぬすえ思ふ身は

中村 京